

2月14日(土)

バレンタインデー



1パック

1,000円 (税込)

バレンタイン寿司

広島菜と
カニ味噌の隠し味

2月15日(日)

押し寿司



焼き鯖

カニ

1パック

1,000円 (税込)

皆さんおはようございます。お久しぶりです。今年初コメントの佐々木です。

私事になるのですが、先輩の西浦さんにイカ釣りのエギングを推しに推されて、ついに始めることになりました。1月から少しずつエギ用品を集めており、今月ついに初挑戦ということでも楽しみです。

今週の広告は、土曜日はなんとバレンタイン。てまり寿司を販売します。色々なトッピングで色鮮やかに。自分へのご褒美、プレゼントにいかがですか？僕にも誰かくれるかな？。楽しみにしています。

そして日曜日は、カニの押し寿司と焼き鯖のバッテリーを販売します。カニは、見た目は赤と白の緑起の良い紅白カラー、味はカニ味噌を隠し味に、カニをしつかり感じる事ができ、口の中がカニでいっぱいになりとても幸せな気持ちになります。

焼き鯖は鯖表面の光沢のある脂、炙るときの匂いに食欲をそそられます。そしてシャリに混ぜ込んである広島菜と、香りあるゴマによる調和で、素晴らしい商品となっております。皆さん是非お買い求めください。ご来店お待ちしております。

西田鮮魚店 佐々木力駆



西田鮮魚店

☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

『ジョイフル2.0は若い世代の力で…』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I 雪と投票

悦子がカーテンを開ける音で目覚めた。「雪は？」

今日2月8日は衆議院議員の選挙の投票日だ。

高市さんが衆議院の解散の告知をしてからというもの、大義のない選挙だと批判する声が飛び交った。

さらに解散に否定的な理由として、学生たちが入学試験に集中できないという声もあった。そんなにひ弱か、今の子たちは。

そして雪も。おりからの寒波の襲来で青森や秋田の、町を覆う2メートルはあろうかという雪、その雪に押しつぶされた屋根、雪下ろしに苦勞する人たち、うず高く積まれた雪の壁で人一人通るのがやっとという歩道、スタックする車。そんな映像が連日、テレビのニュースのトップに流れた。そして必ず、その後で、こんな時に解散する高市さんの非常識を責めた。ネガティブキャンペーンだ。

入試に大雪、なんでも非難の理由になるもんだ。

そんな報道のおかげで期日前投票が大賑わいだとニュースが流れた。「市役所に列ができて、投票に30分かかる人もいたらしいよ」と買い物から帰った悦子が話していた。

というわけで投票日の今日の天気気がになった。予報では庄原も大雪とか。外を見るとうつつすらと積もっていた。なんだこれくらいか。

8時過ぎに、庄原駅の投票所に悦子が行った。陽がさしていた。投票所には私たちだけ。投票を終えて外に出ると、私たちと同じくらいの年配の女性二人とすれ違った。

この選挙は高市さんの信任投票だという。わたしは高市さんの歯切れのいい真摯な言動に期待するひとりだ。

II 雪国の店

投票の帰り、『ゆめさくら』に行こうと悦子が言う。「いや、わしはええ」と言ったものの『少しは、よそのマーケットも見んといけんじやろ』と言われて付き合うことにした。

昨日からの雪で、売り場は、ほぼ空っぽ。この天気では仕方ない。ほんのり温かい焼き立てのぶどうパンを買って帰った。

昼ご飯のしたくをする悦子を横目に、ユーチューブを見る。最近テレビでユーチューブを見ることを覚えた。選挙番組を選んで見た。

高市人気の盛り上がりで300議席越えの予測さえある『自民党』。議席半減かと言われる『中道改革連合』などなど。開票前から結果は見えていた。それにしても高市人気はすごい。

「がんばれ、さなえ」わたしもテレビに向かってひとり言。

餅が食べたいという私の希望にこたえ、正月の残りの餅を醤油で焼き、海苔で巻いて2個。うまかった。腹もふくれた。じつとしてと眠くなる。今日はチラシの裏の原稿を書かなければいけない。ジョイフルに行こうと外に出た。スニーカーだった。ズボつと足首まで埋まった。「こりゃあ、ブーツじゃ」。ブーツに履きかえた。3時間のあいだにこんなに…。ジョイフルに着くまでも細かい雪がずつと舞っている。ワイパーが忙しい。

ジョイフルの駐車場にも車は少ない。

週末の雪はこたえる。売り上げ半減だ。『西田鮮魚店』と三次の『すし辰』は、がくつと減る。西風新都の『すし辰』もけつこう減るが、庄原、三次ほどではない。雪国の店は大変だ。

III 雪かき

ジョイフルに着くとすぐ本部の事務局に行った。

「明日の月曜日の雪かき、どうする？」小森館長に聞く。

「倉本さんは今日、休みだったんですが、朝も来て辻さんと雪かきしてくれたんですよ。明日もどうかすると行ってました」

ジョイフルの設備の管理をしてくれているのが倉本部長。

雪が積もりそうなときは、辻さんとふたり、朝4時ころから雪かきをしてくれる。8時ころになると、それぞれのお店から手伝いに出てきてくれるが、それまではたいいてい二人だ。それで開店までには、なんとかしてくれる。

言い訳がましいが、私も理事長になってから3年は、やっていた

のだが、坐骨神経痛になってからは勘弁してもらっている。

ひとくちに4時から雪かきというが、寒い、暗い、雪が降る、そんな中での雪かきは、正直きつい。しかも、最初の2、3時間は二人だけ。ジョイフルの駐車場は広い。孤独だ。

「この雪は半端じゃない。業者さんに頼もう」

倉本部長に電話した。しかし、突然の雪、しかも日曜日、連絡がつかないから、無理だと言う。自分たちでやるしかない。

「大丈夫です。私にまかせてください。」

考えてみれば、ジョイフルがオープンして47回も冬を迎えているわけだ。雪の多い年、少ない年、あったろうけど、たくさんさんの経験をして今にいたる。「わかった。でも朝4時から来るのはやめて、早くても7時にしよう。それで、できるとこまでやろう。」と答えた。倉本部長は笑いながら「わかりました」と電話を切った。

この時期の彼の口癖。「雪が積もって、車をどこに止めりゃあええか、わからんようなとこへお客さんを迎えられんじやあないですか」。明日もやってくれるだろう。

そうやって、ジョイフルは続いてきた。でも、昔は、そうはいっても店も多かった。スタッフもたくさんいた。みんな若かった。だから自分たちでどうにでもしてきた。でも、今は違う。店も減った。人も少なくなった。みんな年をとった。倉本部長も還暦を越えた。

「若いころは昨日できなかったことができるようになる。年をとると昨日までできていたことができなくなる」

年をとって初めてわかる。その通りだ。

IV 空き地

ジョイフルも年をとった。1979年(昭和54年)オープン。47年たった建物は老朽化もいいところ、なにより耐震構造が十分でない。解体するしか道はない。解体して時代に合った形に変えていく。同じように、庄原も年をとった。1954年(昭和29年)に庄原市になった。あれから72年。悲しいほどに壊れていく。商店街も空き家と空き地だらけ。人影もない。

去年、車で通ってびっくりした。市役所前の通り。

『横山旅館』が解体され空き地になっていた。堂々たるたたずまいの旅館だった。父と母が結婚式をあげ、ずっと魚をおさめていた。うちの店もこの通りにあった。私には忘れられない青春の原風景のひとつだ。それが…。「ここに何があった？」すぐには思い出せない。そんな空き地がいたところにある。

しかし、感傷に浸っている場合じゃない。人も店も町も放っておけばダメになる、作り変えなければ。21世紀仕様の庄原に。

V ジョイフル2.0

去年の市長選で50代の市長と副市長が誕生した。若いリーダーたちだ。精力的に明日の庄原を考えていると聞いた。ジョイフルが建つこの地域を、庄原の中心地として元気にしたいのだとも。

しかし、行政に頼ってばかりではいけない。依頼心は人をダメにする。冷え切った暗闇の中で雪かきをする。そんな辛抱強さが、明日を切り拓く。

『庄原をつくり直す』。きつい仕事だろうけども、74才になる私はジョイフルの解体まではやりとげたい。そのあとは若い世代に委ねたい。新しいリーダーたちに。



2月8日の除雪作業で23.3km 31,000歩、歩いたと胸を張る 倉本部長!